

祭壇と天幕の生活をする事の回復

聖書：使徒 7:2. ローマ 4:12. ヘブル 11:8-10. 創 12:1-4, 7-8. 13:3-4, 18

- I. キリストにある信者として、わたしたちはアブラハムの歴史を繰り返しています。クリスチャン生活は、アブラハムが生きた生活です——ガラテヤ 3:6-9. ローマ 4:12 :
- A. アブラハムが信仰によって生き歩いたことは、彼が自分を拒絶し、自分をわきに置き、自分を忘れて、別の方によって生きなければならなかったことを意味します——ガラテヤ 2:20。
- B. アブラハムの信仰による生活は、現在わたしたちの間で繰り返されています。今日の召会生活は、アブラハムの生活と歴史の収穫です——ローマ 4:12。
- C. アブラハムは、神によって召し出され、もはや自分によって生き歩くことをせず、自分が生まれつき持っているあらゆるものを放棄し忘れ、神の臨在を自分の地図とする人です——創 12:1-4. ヘブル 11:8。
- D. アブラハムの信仰は、彼自身に起源がありませんでした。むしろ、彼が神を信じることは、神の要素を彼の存在の中に伝達したことへの反応でした——使徒 7:2 :
1. いったんわたしたちがこの伝達を持つなら、神の本質をわたしたちの存在に染み渡らせる霊的な注入を経験し、神の要素で浸透されます——ローマ 8:6, 11。
 2. 信仰は神の伝達、注入、浸透によって生み出される、神に対するわたしたちの反応です——ヘブル 12:2. ガラテヤ 2:20. 参照、マルコ 11:22。
- II. アブラハムの信仰の足跡を歩こうとするなら、わたしたちは祭壇と天幕の生活をし、キリストをわたしたちの命とし、召会をわたしたちの生活としなければなりません——ローマ 4:12. ヘブル 11:9. 創 12:7-8. 13:3-4, 18 :
- A. 祭壇は、神の定められた御旨のために、わたしたちであること、わたしたちが持っているものをすべて神にささげることによって、神を礼拝することです—— 8:20. 詩 43:4 前半. 参照、ヨハネ 1:14, 29. 4:24 :
1. 祭壇を築くことは、わたしたちの生活が神のためであること、神がわたしたちの命であること、わたしたちの生活の意義が神であることを意味します。
 2. アブラハムはまず、祭壇を建てることによって神を礼拝することを顧み、次に彼の生活を顧みました——創 12:7-8。
- B. アブラハムが天幕に住んだことは、彼がこの世に属しておらず、地上で寄留者の生活をしたことを証しました——ヘブル 11:9-10 :
1. 天幕は祭壇の結果です。祭壇と天幕は互いに関係しており、分離することはできません。
 2. 天幕を建てることは、わたしたちがこの世に属していないこと、別のふるさとに属していることの表示、宣言です—— 15-16 節。
- C. わたしたちはアブラハムの真の子孫として（ガラテヤ 3:7）、地上で旅人であり、彼が行なったように移住し、わたしたちの天幕を張っています（ヘブル 11:9, 13. I ペテロ 2:11）。
- D. わたしたちは地上を歩くべきですが、ここに定住するものではありません。なぜなら、

主がわたしたちの住まいであり（詩 90:1）、また「わたしたちの国籍は天に」あるからです（ペリピ 3:20）。地上でわたしたちは「家もなく、さすらって」いるべきです（I コリント 4:11）：

1. わたしたちは召会生活を拡大する移住者であり、町から町へ、国から国へ、大陸から大陸へ、地上の至る所に地方召会があるようにする必要があります。
2. 召会は人を移住させればさせるほど、ますます人を得ます。召会は人を保てば保つほど、ますます人を失います。
3. わたしたちは移住して主の回復を拡大させるのではなく、固定し、定住し、占有される可能性があります——参照、マタイ 8:20。

E. アブラハムは彼の第一の祭壇を築いた（創 12:7）後、ベテルとアイの間に第二の祭壇を築きました。それらは互いに相対しています（8節）：

1. 「ベテル」は「神の家」を意味し、「アイ」は「崩壊の堆積」を意味します。
2. 召された者の目に、ベテル、すなわち召会生活だけが価値のあるものです。他のあらゆるものは崩壊の体積です。

III. アブラハムには失敗があり、祭壇と天幕を放棄しました。しかしながら、彼には回復がありました。回復とは祭壇と天幕に戻り、そして主の御名を呼び求めるという事柄です——9-10節、13:3-4、ローマ 10:12-13、12:1-2：

A. 結局、ヘブロンでのアブラハムの天幕は、彼が神と交わり、神が彼と交わることができる場所となりました——創 13:18。

B. アブラハムの天幕と彼が築いた祭壇は、イスラエルの子たちが建てた証しの幕屋と祭壇の予告でした——出 38:21。

C. アブラハムは他国人また寄留者であり、「土台のある都を熱心に待ち望んでいた・・・その設計者と建築者は神です」——ヘブル 11:10：

1. 祭壇と天幕の生活をすることによって、アブラハムは他国の地にいるように、信仰によって寄留していることを証しました——9節。
2. 卓越した愛すべき新エルサレムは、神の選びの民の尊い期待、天の旅人の目的地、目標です——13-16節。
3. アブラハムの天幕は、新エルサレム、すなわち究極の天幕の縮図、神の究極の幕屋です——創 9:26-27、12:8、13:3、18:1、ヘブル 11:9、啓 21:2-3。
4. わたしたちは召会生活の「天幕」の中に生きているとき、その究極的な完成、すなわち究極の「集会の天幕」、新エルサレムを待ち望んでいます——I テモテ 3:15、レビ 1:1、ヘブル 11:10。

D. 勝利者は天幕の中に生きて、新エルサレム、すなわち永遠の幕屋と究極の仮庵の祭りを仰ぎ望んでいます——啓 21:2-3、レビ 23:39-43：

1. 過越の祭りは、法理的に神の贖いの開始としてのキリストを表徴します。仮庵の祭りは、有機的に神の完全な救いの完成としてのキリストを表徴します——ヨハネ 6:4、7:2, 37-38。
2. 神が仮庵の祭りを定めたのは、どのようにして父祖たちが荒野でさまよって、天幕（幕屋）に住んでいたかを、イスラエルの子たちが覚えるためでした。「幕屋」という言葉は記念の思想を暗示します——申 16:13-15。

3. 彼らがこの祭りのために共に集まって神を礼拝し、良き地の産物を享受することは、ブレンディングの真の絵です—— I コリント 12:24。
4. 主の食卓は記念の宴席です。それは仮庵の祭りが、記念の宴席であったようにです——ルカ 22:19-20。
5. わたしたちが今日キリストを仮庵の祭りとして享受し、団体的に共に来てブレンディングし、良き地の産物としてのキリストの豊富を享受することは、わたしたちがまだ荒野にいて、永遠の幕屋である新エルサレムの安息の中に入る必要があることを、思い起こさせます——啓 21:2-3。